

# ウェルび～な通信

第6号

## ～ずっと海老名で暮らしたいプロジェクト～

### 第3回 海老名市自立支援協議会が開催されました

今年度、第3回目となる自立支援協議会が平成29年2月10日（金）に、海老名市総合福祉会館で開催されました。今回は、二部構成で開催され、第一部では、チーム暮らすより、地域とのつながりを求めて行った民生委員・児童委員との情報交換会についての報告がありました。また、来年度の自立支援協議会の体制や、海老名市障害者差別解消支援協議会の設置について、事務局より説明が行われました。第二部では、各チームより活動報告が行われました。

#### チーム 活動報告

各チームの活動内容や  
成果を報告します！



#### チーム「暮らす」

民生委員・児童委員との情報交換会を開催。確認された主な意見は、以下のとおりとなっている。

- ・障がいに対する情報が少ない
- ・障がいのある方が、どんな支援を必要としているのかを、もっと知りたい。
- ・情報発信や理解を深める機会を持ち続けることが大切。

#### チーム「育つ・学ぶ」

昨年度のアンケート結果や、各機関からの現状報告から、支援が必要となった時、相談機関やサービスに関する情報を、なかなか得ることができないという課題があることが明らかになった。次年度は、具体的な情報提供の方法について、検討を重ねていく予定。

#### チーム「活動する・あそぶ」

障がいのある方が、より充実した生活を送るために、ボランティアの存在は重要。気軽にボランティア活動ができるよう「冊子・ポスター」を作成し、市役所やコミュニティセンターに配架。海老名駅遊歩道での電子掲示なども行い、積極的な普及・啓発活動を行った。

#### チーム「働く」

神奈川県障害者就労相談センターと共催で、研修会を開催。関連機関と協力体制を確保することができたことが大きな成果。来年度は、企業に向けた情報発信として、商工会議所の発送物へのチラシ折込を予定。雇用拡大につながる活動をしていきたい。

#### チーム「まもる・つながる」

困っている方や、困っているが相談しづらいと感じている方が、相談機関につながるができるよう、リーフレットを作成。配架先の検討を行った。今後も「気軽に相談できる地域」を目指し、関係機関にリーフレットの活用や情報共有の機会を設けるなどの活動を予定している。

### ★先進事例として発表してきました★

2/1に東京で自立支援協議会に関する研修会が開催されました。その中で、海老名市自立支援協議会の活動が、先進的な取り組みをしている事例として取り上げられ、発表してきました。全国約1,700ある市町村から選ばれた3市町のひとつとして発表できたことを光栄に感じるとともに、これまでの活動が認められた思いがしました。発表をしてきたことが定例会で報告され、これまでの活動の成果として、参加者全員で確認をしました。



今回は、市内在住で、バスケットボールで活躍されている山井 幸さん（32歳）とサポートをされているご家族にお話を伺いました。現在、山井さんは、平日は、仕事をしながら、余暇活動として、2つのバスケットボールのチームに在籍。神奈川県選抜のメンバーとして選ばれ、全国大会でも優勝の経験があります。ご本人の想いとして、スペシャルオリンピックスの世界大会に出場できたら、という夢があるそうです。

## Q：バスケットボールをはじめたきっかけを教えてください。

マンガやアニメで有名な「スラムダンク」に影響を受けて、中学校からバスケットボールを始めました。

## Q：現在の活動やチームの紹介をお願いします。

現在、2つのチームに所属しています。母が、インターネットで探してくれました。それぞれ活動場所やメンバーは異なりますが、自分より上手な人もいます。神奈川県選抜として全国大会に出場し、優勝したこともあります。

## Q：どんな時に楽しさや喜びを感じますか？

大会があると楽しいし、3ポイントシュートやゴール下の競り合いが楽しいです。なるべく上を目指してプレーする事も楽しさの一つとなっています。

## Q：今後の目標を教えてください。

たくさんある地方の大会で優勝したいですし、神奈川県ゆうあいピック大会のM1クラスに出場し準優勝をしたいです。（とても強いチームがあるので…準優勝を目指します）スペシャルオリンピックスの日本代表になり、世界大会に参加できたらと考える時もあります。最後に、一緒にバスケットをしてくれる仲間も募集中です。



やまのい こう  
山井 幸さん（32歳）



ドリブルをする幸さん

## <ご両親インタビュー>

### Q：活動をはじめた後のご本人の変化を教えてください。

活動をはじめた前は、精神的に不安定になることがありましたが、運動することによって汗をかき、ストレスを発散することで、精神安定や安眠にもつながっています。本人は、ルーティンワークが得意なので、仕事でも練習でもルーティンを黙々と真面目にこなし、周囲から高い評価を得ています。褒められることで更に成長しています。チームメイトには、さまざまな障がいのある方がいますが、その方との違いや共通点を理解できるようになり、練習では、年下の方への優しさや、配慮が見られるようになったことが大きな変化です。日常生活では、ストレス解消する方法も増え、旅行に出かけたり料理をしたりと、パターンが増えてきています。これらは、相談機関の支援があったからこそだと思います。

### Q：ご家族の想いを教えてください。

活動によって、本人は大きく成長したと思います。一方、苦労していることは、仲間作りが難しいことです。理由は、障がいを理解しているバスケットボールの指導者が少なく、結果として、活動をしている人が少なくなっています。これまで養護学校等に働きかけをおこなっていますが、まだまだ足りないと感じますので、より一層のサポートを期待します。横浜、川崎など、政令都市はサポート体制が整っておりチームも強いです。海老名市や県央地区も強いチームをこれから作っていきたいです。えびな支援学校が出来たので、連携することができたらと思っています。現在、活動するためには、練習場所の確保や送迎など、私たち家族がサポートをしています。親なき後でも、市内でバスケットが出来る仲間が欲しい！そのためにも、より一層の周囲の理解やサポートが必要だと考えています。

### スペシャルオリンピックスとは

スポーツを通じ、知的障がいがある方の社会参加をサポートする団体。バスケットボール以外にも、様々な競技があり、世界大会も開催されている。

### 神奈川県ゆうあいピックとは

神奈川県内の知的障がいのある方が、スポーツを行い、成果を発表することで、自立や社会参加の意欲を高めたり、障がいの理解を促進することを目的とした大会。

